

タイトル	献辞
著者	郡司, 淳; GUNSHI, Jun
引用	北海学園大学人文論集(58): 1-3
発行日	2015-03-31

献 辞

人文学部長 郡 司 淳

私どもの敬愛する井上真蔵先生と池内静司先生が、2015年3月末日をもって退任されることになりました。誠に残念ではありますが、ご退任にあたり、学部を代表して送別の辞を述べます。

井上真蔵先生は、1972年3月国際基督教大学大学院行政学研究科修士課程国際関係論専攻修了後、同大学社会科学研究所助手・トロント大学大学院政治経済学研究科博士課程国際関係論専攻を経て、1983年4月に北海学園北見大学講師に着任され、北海学園北見女子短期大学助教授・同教授を経て、1995年4月に北海学園大学人文学部に教授として異動されました。

先生のご専門は国際関係論ですが、とくにカナダ留学後は異文化接触という視点で日本とカナダの姉妹都市交流に関する事例研究を蓄積してこられました。その成果は、『世界の議会』第11巻／カナダ・中米（1983年）や『カナダの政治』（1978年）といった共著・共訳書、さらには「ボーダーを越える「ケベックの歌姫」」（2001年）や「転換期にたつ姉妹都市交流——交流成果を明日に架ける橋に——」（2009年）をはじめとする多くの論文に結実しております。

授業では、学部の北米史Ⅱ・北米文化論Ⅱ・異文化理解論・専門演習などを担当され、とくに実践的思考力の育成を重視し、具体的事例を通して文化的仕組みとそれを貫く価値観を読み取る教育を重ねられ、多くの優れた学生を社会に送り出してこられました。また学内委員としては、協議委員・学科委員・入試委員（2期）・就職委員・学生委員・外国人教員採用委員会委員長・「海外文化」評価委員会委員長・在外研修委員などを歴任されておられます。

先生は、こうしたご業績と、カナダ政府国費留学生としての8年におよ

留学体験を背景に、多年にわたって日本カナダ学会理事と北海道カナダ協会理事を務められ、さらに2007年からは北海道カナダ姉妹都市会議を主宰されるなどの重責を担われ、日本・カナダ両国の真に実りある交流の実践に力を尽くしてこられました。

池内静司先生は、1983年3月北海道大学大学院文学研究科修士課程英語英米文学専攻修了後、同年4月に北海学園大学教養部講師に着任され、同助教授・共通教育研究センター助教授・経済学部教授を経て、2007年4月に人文学部に教授として異動されました。

先生の研究分野は英文学で、大学院在学中からT. S. エリオットの研究に取り組み、爾来30年以上にわたってその文学、特に批評を中心に研究してこられました。その成果は、「T. S. エリオットの文学と哲学論文」(1987年)や「T. S. エリオットの宗教的感受性とブラッドリー哲学の研究」(1988年)をはじめとする多くの論文にまとめられています。とくに、1991から92年にかけてイギリス・ケンブリッジ大学に在外研修に赴かれた際、当時未刊行であったエリオットのクラーク講義の原稿を発見され、これを基に、「T. S. エリオットの詩論とダン批評の展開——クラーク講義を資料に加えて——」(本田錦一郎編『近代英文学への招待——形而上派からモダニズムへ——』〈北星堂、1998年〉所収)を公表され、学界から高い評価を得ました。

授業では、一般教育科目では英語講読・英語文化演習・外国文学などを、専門科目では英米文学講読・専門演習などをそれぞれ担当され、学生の指導に熱心にあたるかわら、教養部・経済学部・人文学部において協議員・教務委員(2期)・入試委員・学生委員・就職委員・高大連携検討委員・高大連携実施委員長・教育開発運営委員・基本権委員・英語小委員長などを歴任されました。さらにこの間、日本英文学会北海道支部理事や日本T. S. エリオット協会委員などの重責を担われ、日本における英文学研究の発展に意を用いてこられました。先生の誠実な態度は、いずれの職務にあっても一貫して変わることなく、まさに周囲の模範となるとともに、同僚や後輩の良き相談相手として、骨身を惜しまず問題解決に奔走されました。

奇しくも同じ1983年に北海学園に赴任されて以来、井上先生はお生まれになった上方の文化が生み育てた洒落に、池内先生はイギリス仕込みのウィットに富んだ会話に、批判精神を忍ばせることで、しばしば場の閉塞状況を打開し、長きにわたって本学で重きをなしてきました。両先生は、旧制大学から引き継がれた日本の大学の古き良き伝統に根ざした昔気質ともいうべきものをお持ちの最後の世代で、教養によって織りなされた独特の型がおりでした。「改革」の名の下に、大学から批判精神が喪われつつある昨今の状況を思うにつけ、今更ながらに両先生の存在の大きさを痛感しております。

なお両先生には、多年にわたり、研究・教育・大学運営の諸活動をとおり、本学の発展に寄与された功績により、2015年4月1日付けで名誉教授の称号が授与される予定であることを申し添えます。

井上真蔵先生、池内静司先生、どうかいつまでもお元気で、後進の指導にあたられるとともに、大学の将来を見守ってください。両先生のますますのご活躍とご健勝を祈念し、はなむけの言葉といたします。